

課外教養プログラムプロジェクト
2023年度 活動報告書

法政大学学生センター

2023 年度報告書の刊行に寄せて

法政大学学生センター長 武生 昌士

2023 年 5 月 8 日から新型コロナウイルス感染症が感染症法上の 5 類感染症に移行したことに伴い、本学においても組織的な一律の活動制限・行動制限は撤廃されるに至りました。この状況を踏まえ、ひとつでも多くのプログラムを、と学生スタッフが精力的に取り組んでくれた結果として、プログラム数は昨年の 29 から 44 へと約 1.5 倍に、また参加者数も約 730 名から約 1200 名・1.6 倍強へと大幅に増加しました。コロナ前の 2019 年度が 44 プログラム・約 3000 名参加でしたので、プログラム数に関してはコロナ前の水準に戻ったと言って差し支えないように思われますし、参加者数に関しても、2019 年度にはのべ 1105 名が参加した「健康見直し週間」をはじめとして、参加者数の多い企画が複数あったことを考慮に入れば、おおむね同水準に戻りつつあると評価してよいように思われます。改めて学生スタッフの頑張りに敬意を表するとともに、学生をサポートして下さった担当職員の皆様、またお力添えを下さった講師の先生方に、心より御礼を申し上げます。

さて、先ほど私はコロナ前の水準に戻ったかどうかの比較・検討のためにあえてプログラム数や参加者数に言及しましたが、これらの数字はむやみに増えればそれでよいという類のものではありません。参加者数は少ないものの参加者一人ひとりが深い学び・高い満足度を得られる企画もあれば、参加者数は多かったが企画の趣旨が今ひとつ参加者に伝わりきらず、あまり高い満足を得られなかった、などという企画もあり得るからです。参加者数というわかりやすくも「教養」プログラムの評価にはさほど意味のない数字に今後過度に拘泥することのないよう、2019 年度報告書の巻頭言における齋藤勝・前学生センター長のこの呼びかけを、自戒も込めて再掲しておきたいと思います。

「多くの学生の参加が得られるかどうかなんてことに悩む必要はありません。皆さんの素直な情熱は、きっと誰かの心に響くはずです。それは数で計るものではありません。」

そうした観点からいえば、「現役フラガール学生がフラダンスの魅力を教えます！」は、まさに学生の情熱から生まれた素晴らしい企画であったと思います。また廣瀬総長を講師に、加賀市の職員の方をゲストにお招きして開催された「～IT で地域課題を解決！？～加賀市のスマートシティから未来のまちづくりを学ぼう」も、学生たちの興味関心と廣瀬総長の専門分野が響き合って形作られた、まさに「教養」プログラムと呼ぶにふさわしい企画でした。今後もこうした企画が学生の情熱や素朴な興味関心から生まれ続けることを願っています。

また、コロナ禍によっていわば怪我の功名的にもたらされたオンライン形式の企画やハイブリッド企画については、今後も企画の性質に応じて柔軟に運用されていくことが望まれます。対面とオンラインの双方に気を配らなければならないハイブリッドならではの運

用の難しさも報告されており、確かに何でもかんでも無理にハイブリッドにするというのは適切ではないように思われます。他方で、あくまで対面を原則としつつ補助的にオンラインを活用するのだと位置付けるのであれば、あくまで補助にすぎないのですから、対面参加と100%同じものを提供する必要は必ずしもないのだと割り切って考えることも許されるのではないのでしょうか。運営側にも参加者側にも無理のない形で、今後もオンラインが適宜活用されていくことを期待しています。

2023年度の成果を踏まえ、2024年度も多様で魅力的なプログラムが活発に展開されることを祈念致します。

目 次

法政大学後援会補助事業（2007 年度文部科学省「学生支援 GP」採択事業）

2023 年度報告書の刊行に寄せて

法政大学学生センター長 武生 昌士

課外教養プログラムプロジェクト（KYOPRO）活動報告

学生スタッフの活動記録 3

プログラム実施報告 7

付録 93

課外教養プログラムプロジェクト(KYOPRO) 学生スタッフの活動記録 (2024.3.31 現在)

1. メンバー構成：計67名 ※2023 年度卒業生を含む

(1) キャンパス別内訳

- ①市ヶ谷キャンパス 25 名
- ②多 摩キャンパス 29 名
- ③小金井キャンパス 19 名

(2) 学年別内訳

- ①1 年生 16 名 (市7多8小9)
- ②2 年生 16 名 (市5多6小3)
- ③3 年生 15 名 (市7多9小3)
- ④4 年生 20 名 (市6多6小4)



2. ミーティング：

- (1) 市ヶ谷キャンパス：春学期 週1回（曜日不定）／ 秋学期 週1回（曜日不定）
- (2) 多 摩キャンパス：春学期 週1回（曜日不定）／ 秋学期 週1回（曜日不定）
- (3) 小金井キャンパス：春学期 週1回（曜日不定）／ 秋学期 週2回（曜日不定）実施

※その他、全体ミーティング（3 キャンパス合同）を状況に応じて対面・オンラインを使い分けて、実施した。
3 キャンパスの学生リーダーの会議を随時実施した。

3. 実施目的：

- プロジェクト活動を通じた「ピアサポート」活動の展開
- プロジェクト活動を通じた「コミュニティ」の形成、「社会人基礎力」の養成

4. 外部団体との交流：

2023 年度は無し。

5. 担当職員による振り返り：

〔市ヶ谷キャンパス〕担当：團之原啓一、鎌田愛子（文責：鎌田愛子）

2023 年度の課外教養プログラム学生スタッフは新スタッフを7名迎え、1～4 年生含めて、25 名体制で運営、企画立案を行った。2023 年度は学内でのコロナ禍による活動制限がすべて撤廃され、コロナ禍以前同様に制限無しで企画が行えるようになった。その影響もあり、2023 年度リーダーズの学生たちは、活動を活発化する方向で複数の目標を掲げ、運営を行った。特に「企画数を増やす」という目標については、市ヶ谷の学生スタッフ発案企画が2023 年度は12 企画となり、2022 年度と比較して、5 企画増えた。3 年生のリーダーズを中心に、2 年生1 年生も積極的に企画に関わるメンバーが増え、活動的な1 年間だったと感じた。また、就職活動の終わった4 年生がチームに戻ってきてくれることで、学生スタッフ同士の交流が活発化し、安定感につながっているとも感じた。4 年生が戻ってくる組織としての良い伝統は、今後も継続してほしい。

学外に行く企画も多く、例えば4 月の「春の高尾さんぽ」企画、8 月の「豊洲の卸売業とわたしたちの生活

のつながり～日本最大級の魚市場・豊洲市場の卸売を見にいこう！」企画、12月の「大学生のための工場見学」企画、「日本庭園の初歩～日本庭園に行って学ぼう～」企画、「水族館の裏側を深掘！一海の生き物と私たちの関わりを知ろう」企画、3月の「対話型鑑賞企画」と計6企画となった。学内で行う企画と比べ、講師が提案するパッケージ化された企画にならないように、KYOPROらしさ、学生たちが考える魅力ある企画作りを特に大事にするようにアドバイスをしながら準備を進めた。その結果、講師選定や企画内容の調整に時間がかかった企画もあったが、時間がかかっても、自分たちのやりたいこと・思いをメンバー内で編み上げながら言語化し、伝えるようにすることの重要性を再認識した。そのプロセスを通じて、学生自身が苦労しながらも成長する姿を多く見る事ができた。

また、体験型の企画も多く、5月の「急須で味わう日本茶体験」企画、6月の「これであなたもばっちり！基礎から学ぶテーブルマナー」企画、11月の「すぐに役立つ！ずっと役立つ！カラーコーディネート講座」、12月の「知って作ろう！香水体験教室」企画、3月の「見たい！知りたい！着てみたい！着物の世界」が行われた。グループワークや体験の時間等を通じて、自然と参加者同士の交流につながりやすく、企画実施後も参加者同士が活発に話をする姿が印象的だった。今後も、学生スタッフ間だけではなく、一般学生にとっても一つの居場所となるようなKYOPROを目指したいと感じた。

上記以外で触れておきたいのは、12月の「～ITで地域課題を解決！？～加賀市のスマートシティから未来のまちづくりを学ぼう」企画である。廣瀬総長を講師に、加賀市の職員の方をゲストとしてお迎えし、まちづくりについて本格的に学生が議論できる良い企画だった。学外へ行く企画や体験系の企画は参加者が集まりやすい一方で、講義と議論を中心にした企画は参加者が集まりにくい傾向にある。しかし、学生たちの興味関心と、講師である廣瀬総長の専門分野を見事に融合できた企画であった。参加者が集まりやすい・興味関心をひきやすい企画というのも大事だが、それだけではなく、専門的で、一見難しく感じられる内容をテーマにした企画も、ぜひ今後も継続したいと感じた。緊張しながらも真剣に学生スタッフが廣瀬総長と打ち合わせをする姿や、参加学生同士が熱心に意見を出し合う姿は、職員としても大変印象に残った。

このように2023年度は、個性豊かな企画を多く実施することができた。リーダーズを中心として学生スタッフのひとり一人がリーダーとなり、各企画を運営してくれた。一方で、新規加入の1年生の一部は、活動に定着することが難しかったという課題もあった。活動はもちろん強制するものではないが、加入前にKYOPROの魅力や大切にしたいことを正確に伝えられていたのか、学生スタッフと複数回協議した。2024年度は、新規リーダーズの学生が、加入者向けにKYOPROの意義や魅力を言語化して説明するとともに、職員としてもKYOPROの起源や価値観について、学生スタッフに説明し、共有する機会が必要ではないかと感じている。引き続き、学生たちの力を引き出せるように支援していきたい。

〔多摩キャンパス〕担当：佐藤 貴広

2023年度は、新1～3年生17名の学生スタッフが加わり、計29名で活動を行った。既存スタッフよりも新規スタッフの方が多いという状況で、新型コロナウイルス感染症が落ち着き、興味のあることに積極的に参加し、様々なコミュニティをもちたい学生が多かった年だと感じた。SNSやHoppiiメール配信で興味を抱き、説明会に参加して入会するという新規スタッフが多かったが、4月に開催した「良い人付き合いを始めるための第一印象」に参加して入会を決めた新規スタッフもいて、4月にプログラムを開催するメリットを感じた。また、説明会に参加した学生の多くが入会し、すぐに活動から離れることもなく継続して参加してくれたことには、リーダーズの力が大きかっただろう。2023年度リーダーズは、頻繁にスタッフルームを使用したり、交流会を開催するなど、スタッフ同士のつながりを大事にしていた。また、役職がない人を作らないようにするため、SNS班やポスター班、道具作成班といった細かな班分けを行い、同学年だけでなく他学年との交流も促していた。この取り組みのおかげで、忙しくてあまり定例MTGに参加できないスタッフも、MTG外で活躍することができ、退会率の低さにつながったと思われる。

企画に関しては、今年度の学生スタッフ発案企画では、10個の企画を実施し、2017年以降、最も多くの企画数となった。実施形態の内訳は、対面（学内）企画が5個（うちオンデマンド対応1個）、対面（外出）企画が3個、オンライン企画が2個で、全ての実施形態を経験できた。

4 月に開催した「良い人付き合いを始めるための第一印象」では、新たな人間関係が構築される時期に合わせた企画であり、新入生も参加してもらえるように新歓祭での告知など、広報の仕方にも力を入れた。学んだことをすぐに実践して、新入生同士や他学年との「参加者間交流」を深めるプログラムにしたかったため、講師打ち合わせの段階からグループワークを多く取り入れてほしい旨を伝えた。その結果、一つのグループでのワークだけでなく、隣のグループを交えたワークを行うなど、多くの「参加者間交流」が生まれたプログラムとなり、参加者それぞれが講師から学んだ第一印象を良くするための方法を実践しやすい環境となった。

夏休みには「「光」が引き出す芸術の魅力～200 年間のきらめきの軌跡を見よう～」や「博物館で学ぶ放送の歴史」といった外出企画を行った。外出企画は 2022 年度に 1 度行ったが、そのときの企画班メンバーは参加しておらず、スタッフは講師交渉やプログラム当日の流れについて把握していない状態であった。しかし、2022 年度の反省資料を詳細に確認するなど過去の教訓を活かし、無事開催することができた。一部、アンケートではスタッフが盛り上がりすぎている等の指摘があったので、KYOPRO スタッフが多く参加する企画では、「運営団体」という自覚をもって行動してほしい。この点については、対面企画の注意事項としてリーダーズが引継ぎ資料を作成しているので、次年度以降、改めて確認してほしい。

12 月に開催した「交流しながら学ぶ！外国語としての日本語講座」では、留学生との交流を目的とし、第一言語として日本語を話す学生と留学生の双方を募集した。留学生を募集するため、留学生 KYOPRO スタッフから各国の友人に声をかけてもらうことや、グローバルセンターにチラシを配架するなど、従来とは異なるさまざまな広報を行った。その結果、通常の 3 倍以上も留学生が参加し、交流を深めることができた。交流をメインにするプログラムであり、グループワークの内容については、1 年生のスタッフ 3 名と講師とで「留学生にとって難しい日本語」について考えた。実際に複数の留学生へアンケートを実施し、その回答を講師に伝え、複数回、Zoom にて講師と打合せを行った。4 年生がサポートに入り 1 年生が主に作り上げた企画で、「参加者にとって満足度の高いプログラムとは」ということを深く考え、何度も打ち合わせを行うなど、1 年生にとって、企画の作り方について学べる非常に良い経験になったと思われる。

2 月には昨年も開催した人気企画「星空観望会—冬の星空の魅力に迫る—」を開催した。昨年と同じ講師にご協力いただき、事前の打ち合わせから当日まで非常にスムーズに進めることができた。天候に左右される企画で、当日は曇り時々晴れという天候であったが、そのようなパターンも準備していたおかげで、焦ることなく運営することができていたと感じた。企画班は、この経験から準備の大切さを非常に学べた経験となっただろう。

全体を通して、ハムさん・川本さん・福田さんというリーダーズを中心に、それぞれの状況をしっかりと把握して役割を振るなど、みんなが成長できる機会が多かったと感じる。2023 年度のリーダーズは 2022 年度同様、ちょっとしたこともすぐに窓口にて報告してくれるなど、職員として多摩 KYOPRO の状況を把握しやすかった。企画数も多く、新規スタッフも既存スタッフの倍以上となるなど、一人ひとりの忙しさ等を把握することが難しかっただろうが、積極的にスタッフルームに呼びかけるなどしてくれたおかげで、うまくまとめることができたのだと思う。次期リーダーズには、2023 年度リーダーズが取り組んでいた良いところ（特に情報共有）を吸収し、改善できるところはより良く改善してほしい。

【小金井キャンパス】担当：菅野 渉

2023 年度の KYOPRO は、新型コロナウイルスが第 5 類となり、実施可能なイベントの幅が広がったことも影響してか新たに 11 名のスタッフを加え 19 名で活動を行い、「1 つでも多くの対面プログラムを開催する」ことを目標に掲げ、春学期は 1 プログラム、秋学期に 6 プログラムと計 7 プログラムの実施をすることができ、昨年度の 2 プログラムから大きく数を伸ばすことができた。

大きく数を伸ばせた要因としては、「4 年生スタッフによる新スタッフへの手厚いサポート」が挙げられる。通常のミーティング以外でも交流の場を作ったり、企画書作成のノウハウを教える「企画書作成大会」等様々な試みを行った結果、秋学期に企画を 6 つ実施することはできたことは 2024 年度に活かしていきたい好材料である。

一方で課題も何点もあり、「ミーティング時のスタッフの参加率の安定」、「上級生スタッフから下級生スタッフ

への引継ぎ」等が挙げられる。

ミーティング参加率に関しては、春学期は前リーダーズの意向により週1回昼休みの開催となり、参加率は上昇したが、アジェンダや当日の進行については淡々と作業をこなしていくイメージで、参加スタッフの成長を実感できる部分はほとんど見られなかったと感じる。

夏休みより実施回数の再検討をはじめ、話し合う時は週3回や通常時は週2回等、イベントごとに頻度を検討を行っていき、春学期に比べ格段に議論が進むようになった反面、完全対面としていたことから「大学に来ない」等の理由で欠席するスタッフが目立ち始めてしまった。欠席連絡をしっかりと行うスタッフと連絡をしないことが当たり前になっているスタッフと意識の差が出てきているため、最低限の連絡は徹底させたい次第である。

今後、新リーダーズの意向でミーティングの開催形式を対面とオンラインを併用した「ハイブリッド形式」を復活させる方向であるが、2023年度の報告書でも記載した懸念点（家等から遠隔でも参加可能なオンラインを活用することで参加率の向上を狙ったが、「対面で来なくて良い」ことを理由に各々予定を入れてしまい、結果として一部のスタッフを除き参加率が下がってしまう結果）が払しょくできず、そこは学生スタッフの責任感に期待したいところではある。

プログラムにおいても通常の流れ以外にもブラインドサッカーやピラティスのような体験型企画も実施できたが、初めて「ハイブリッド型企画」を実施してみた。担当職員の感想としては、対面とオンライン両方の運営を同時に行うため、ハード、ソフトともに事前準備が必要なことと、当日学生スタッフが機器の操作やトラブルを事前にシュミレーションしていないとオンライン側に音声が届かない可能性が出てくるため通常時に比べ緊張感のあるプログラムになることが想定される。一方で文系の参加者にとってはオンラインで参加しやすくなるため、より多くの学生からプログラムに関する意見などのアンケートを回収できるメリットもある。今後はプログラムの内容次第でハイブリッド開催も視野に入れつつ学生スタッフと実施方法を検討していきたい。

現役学生スタッフの引継ぎ及び成長については今年度も課題である。前リーダーズが引継ぎを一切行わずに交代を行ったことから4年生スタッフが臨時でリーダーズを務め、後輩を育成した。学部生を卒業した4年生スタッフにはこの場を借りて御礼申し上げたい。上級学年は本来下級学年をサポートする役回りなのであるが、近年「頼れる人に仕事を任せてしまおう」という風潮があるのか、上級学年も下級学年のように「できる人」に頼ってしまう学生スタッフが多くなっていると感じている。3キャンパスミーティングやピアネット合同研修会にも積極的に参加を促し、自分とは違う価値観の学生と触れ合うことで、協調性と主体性が芽生えることに期待しつつ引き続き学生スタッフ自身の達成感と成長を促せるように日々の活動をサポートしていきたい。

2023 年度プログラム実施一覧

	実施日	プログラム	申込者	参加者	留学生
実施 プ ロ グ ラ ム	4月23日(日)	春の高尾さんぽ	24	17	0
	4月24日(月)	理系のためのPower Point 作成術	9	8	0
	4月26日(水)	良い人付き合いを始めるための第一印象	128	124	1
	5月20日(土)	東京六大学野球応援ツアー(東京大学戦)	70	47	0
	5月23日(火)	急須で味わう日本茶体験	22	17	2
	6月2日(金)	多目的室利用講習会(第1回)	46	20	0
	6月6日(火)	多目的室利用講習会(第2回)	46	11	0
	6月17日(土)	能楽鑑賞教室(事前学習)	9	5	0
	6月10日(土)	歌舞伎鑑賞教室	40	39	12
	6月12日(月)	ミュージカル鑑賞教室(事前学習)	43	18	0
	6月13日(火)	ミュージカル鑑賞教室(観劇)	43	38	0
	6月16日(金)	オレンジホール利用講習会(第1回)	46	17	0
	6月16日(金)	これであなたもばっちり! 基礎から学ぶテーブルマナー	20	16	0
	6月21日(水)	能楽鑑賞教室(観劇)	9	9	0
	6月23日(金)	恋愛学から学ぶ! 人との距離を縮める方法	54	36	2
	7月7日(金)	三曲体験教室	16	11	0
	8月11日(金)	豊洲の卸売業とわたしたちの生活のつながり ～日本最大級の魚市場・豊洲市場の卸売を見にいこう!	17	15	0
	8月24日(木)	「光」が引き出す芸術の魅力～200年間のきらめきの軌 跡を見よう～	24	20	1
	9月6日(水)	博物館で学ぶ放送の歴史	22	18	1
	12月26日(火)	水族館の裏側を深掘! 一海の生き物と私たちの関わりを 知ろうー	41	16	0
	10月21日(土)	東京六大学野球応援ツアー(明治大学戦)	69	42	0
	10月28日(土)	法政サッカー部を応援しよう!(東海大学戦)	48	30	1
	11月7日(火)	印象アップ! 色で見る新しいファッション	12	11	1
	11月17日(金)	ナイフやフォークの扱い方を知っていますか? ～ぶれな いマナーで一生ものの食事をしよう～	15	12	0
	11月18日(土)	すぐに役立つ! ずっと役立つ! カラーコーディネート講 座	20	15	0
	11月20日(月)	目が見えないってどんな感覚!? ブラインドサッカーを 通して障がい者スポーツを体感しよう	14	14	0
	11月20日(月)	交流しながら学ぶ! 外国語としての日本語講座	19	16	5
	11月24日(金)	危険ドラッグの恐ろしさ～薬物乱用防止セミナー～	294	266	0
	11月30日(木)	美味しいごはんでは体調を整えよう! 薬膳を知ろう!	20	18	2

	実施日	プログラム	申込者	参加者	留学生
	12月4日(月)	健康を手に入れろ！献立マスター教室	13	12	0
	12月5日(火)	知って作ろう！香水体験教室	36	19	0
	12月9日(土)	大学生のための工場見学	21	15	0
	12月14日(木)	現役フラガール学生がフラダンスの魅力を教えます！	9	9	1
	12月15日(金)	～ITで地域課題を解決！？～加賀市のスマートシティから未来のまちづくりを学ぼう	18	18	0
	12月17日(日)	日本庭園の初歩～日本庭園に行って学ぼう～	20	17	0
	12月17日(日)	甲子園ボウル応援ツアー（関西学院戦）	30	30	0
	12月21日(木)	海外旅行をもっと楽しむために！プロから教わる旅のヒント	21	16	1
	12月22日(金)	《初心者向け》姿勢・からだの歪み改善に！～ピラティスのすすめ～	17	15	0
	2月19日(月)	無機質なロボットが人間社会に馴染むには？心理学から問題解決に迫る！～不気味の谷現象の視点から学ぼう～	24	18	0
	2月24日(土)	星空観望会～冬の星空の魅力に迫る～	39	33	0
	3月1日(金)	美術探求ツアーin アーティゾン美術館	22	18	0
	3月4日(月)	獣が自然を食い漁る！？～私たちは食害とどう向き合うか～	14	11	0
	3月4日(月)	見たい！知りたい！着てみたい！着物の世界	14	15	2
	3月18日(月)	体験して学ぶおもちゃの文化	16	12	1

44 のプログラムに、約 1,200 名参加

* 上記は学生スタッフが企画・実施したプログラムだけでなく、既存プログラムなど学生センターが実施したプログラムを含む。